

生産工業部会視察見学会 報告書

- 開催日 平成 27 年 12 月 11 日（金）
- 視察先 ㈱松創、㈱北川鉄工所、㈱ニチマン、平の家（懇親会）
- 目的 ものづくり現場の見聞を深めるとともに、部会員相互の懇親を図る
- 参加者 11 名（事務局 1 名含む）
- 主催 三原商工会議所 生産工業部会

本所生産工業部会（大目木康行部会長）では、12月11日（金）、広島県府中市のものづくり企業3社の視察見学会と、親睦会を実施しました。

視察先は、㈱松創、㈱北川鉄工所、㈱ニチマンの3社、懇親会は府中焼きの老舗平の家で行いました。

㈱松創

製材から完成までの工程はすべて当社で行われており、各パーツでの仕入はなく、材料は天然乾燥で3～5年の歳月をかけて最良のものを使用されています。できるだけ一つのタンスは同じ原木から作るようにされています。



《製材》

桐材は丸太のままで乾燥し、挽き割って製材し乾燥にかけます。木はそれぞれの特性を見抜き用途に応じて製板されます。

《乾燥》

桐はまさに生き物、天然乾燥が必要です。梅雨の雨に何回も通しあくぬきするという気の遠く

なりそうな歳月を必要とします。用途により色々な乾燥方法をとります。1本の原木から良質の所のみ選び使用しています。特に表面の材料は1本からわずかしかとれない良質の柾目を厳選して使用します。材料は吟味して製材しあくぬき及び乾燥に充分時間をかけているのでひずみがなく美しいものになります。

《木取り、木寄せ》

桐の丸太材は大きさが色々あり製板された板も一定でないため箆筥に合わせて木取りをし、せまい板ははぎ合わせます木の質を選び曲がり節、傷の部分は短く切って適当な所を使い一枚の美しい板にします。

《荒組み、裏打ち》

それぞれの部材がここに初めて組み上げられ馴染みのある箆筥の形が現れます。

《すり込み、組立》

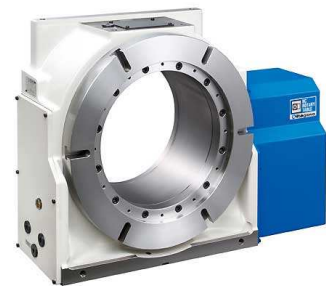
種々の『かんな』での板削りや『ほぞ』造りなどすべてが長い経験と実績を必要とする手仕事で、組立にも内部には一切金物を使わず『うつぎの木』でつくった木釘を使います。寸分の狂いも許されない全て気の張り詰めた作業工程です。

《塗装・金具付け》

前面には『ウズクリ』で平らに木地摺りした後、砥の粉の下地をほどこして夜叉の実の樹液と赤砥の粉をまぜ、するという、昔ながらの工法を行っています。全体をむらなく塗り上げ乾いたら、ろう摺りをして仕上がります。最後に箆筥のデザインに合った金具を付けて完成です。

榊北川鉄工所

4つの事業分野（産機・工機・素形材・立駐）のうちの一つ、工作機器部門である南工場のNC円テーブルの製造現場を視察しました。NC円テーブルは、主にマシニングセンタに搭載される補助機器のひとつです。円テーブルとはワークを取り付ける台のことで、この台に角度を加えることで、垂直方向だけでなく、傾斜角からの加工も行えるため、加工時間が短縮でき、作業効率を向上させる役割を担います。



㈱ニチマン

日本ではいまや希少となったバルカナイズ製法での靴づくりを自社の国内工場で行っています。職人の手によるソールの巻上げなどが独特のクラシカルなフォルムを形づくり、スタイルと履き心地の良さなどから有名ブランドとのコラボモデルも多数製作しています。



ニチマングループは「日満護謨工業株式会社」として1933年に設立され、製靴用板ゴムおよびゴムタイルの製造などを行っていました。

製靴用板ゴムは日本人の足を支えるフットウェアの企画・製造・販売という柱に成長。株式会社ニチマンの「足の健康・安全・安心」を中軸に据えた開発姿勢から生まれるフットウェアは単なるデザイン上の良さだけではなく、“快適に歩く”というニーズを十分に汲み入れた機能的なフットウェアとして皆様に認知されてまいりました。カジュアル・シューズは言うに及ばず、職場における機能を充たした各種シューズや健康に配慮したシューズなど。そのどれもが、お客様にご満足していただけるシューズであることを願って造られています。

平の家（親睦会）

生産工業部会は、業種が多岐にわたることから、普段お話しする機会のない方が多くおられます。そこで親睦会を開催して、親交を深めました。

参加者の感想

- ・ 普段見ることができない所を見学できてとても興味深かった。
- ・ 親睦会で面識のない方とお話できてとても良かった。

